

よしまい

2020年3月29日



ヨシ焼きが春を呼ぶ

目次

•公園の風景

- 壮大な火の舞、ヨシ焼き・・・・・・・・1
- 閉門。でも 園路は歩けます！・・・・1
- 暖冬、公園は・・・・・・・・1

•Sさんカエル池をつくる その④・・・2

•みんなのひろば

- ヒレンジャクが来た！・・・・・・・・2

•活動紹介

- ユンボと格闘・・・・・・・・3
- 春のボランティア説明会・・・・3
- 活動を振り返って・・・・・・・・3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-

「葦の会」はきらら浜自然観察公園を中心に、自然を知り・親しみ・守る団体です。自然を楽しみながら、その素晴らしさを伝える活動をしています。一緒にしませんか？

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= 壮大な火の舞、ヨシ焼き =



3月7日(土)、恒例のヨシ焼きが実施されました。今年にはコロナウイルスの影響で臨時休館中なこともあり関係者のみでの実施となりました。あいにく下り坂の天気で肌寒く、炎で暖をとりながらの作業でした。また風のせいか湿気のせいか火の回りがイマイチで、着火して一時的に燃え上がるものの、すぐに収まってしまふの繰り返しでした。終盤は雨もぱらつきはじめ結局予定範囲を焼き切れずに一部残ってしまいました。

それでも2mを優に超えるヨシが炎に包まれ渦を巻きながら燃え上がる一瞬もありその炎はまさに圧巻でした。鎮火後の真っ黒になったヨシ原の向こう側は生き物たちの生息場所として残してあります。毎年部分的にヨシ焼きの場所を変えています。

今年はお楽しみの葦の会特製のぜんざいのサービスもなく、例年とはちょっと違う趣でしたが、これで今年も公園に春が来ました。



= 閉門。でも園路は歩けます！ =



コロナウイルスにより公園の休館通達が県より発令されました。3月2日から3月16日までが暫定休館となり、その後3月31日までの延長となりました。この間の公園行事は全て開催出来ないこととなってしまいました。

しかし園路は開放中。子供たちの声が聞こえ、カメラを持った方など、老若男女の散策される姿が見られました。

休館解除が一日も早いことを願うばかりです。

= 暖冬、公園は =

春分も過ぎ、だんだん春めいてきました。道端にはホトケノザやスミシなどがかわいらしい花を咲かせ、昨年、桜を植えた海岸広場の足元には、ツクシも生えそろっていました。ツクシの確認は3月1日でしたが、その時点ですでに数日を経っていたようで、最速のお目見えとなりました。記録的な暖冬がもたらす影響なのでしょうか。今年にはツクシ以外にも初認記録が全体的に早めだったようです。着々と進んでいる春を探しに来てみませんか。



Sさん カエル池を造る . . . その④

2018年4月、冬眠から覚めたカエルたちが私の池にやって来て産卵しました。そして…



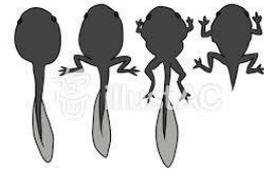
6月11日 孵化が始まった。

10日目頃 水草をかき分けるとオタマジャクシが元気に泳いでいる！ 私も元気をもらおう。

17日目頃 大きくなったオタマジャクシが浅いところに集まっている。鶏のレバーを与える
と成長が早いとテレビで言っていたので、茹でた鶏のレバーを水の中に入れてやると群がってよく食べる。



20日目頃 小さい後ろ足が見え始めた。



30日目頃 後ろ足は立派になったが前足がなかなか出てこない。

(次号に続く)

みんなのひろば😊

ヒレンジャクが来た！

我が家の庭の隅に実生のピラカンサの木が一本あります。毎年ヒヨドリ・ツグミ・シロハラなどが来て年明けには赤い実が全部なくなるのに、今年は2月末でもまだまだ残っていました。

2月15日、ヒレンジャクが50数羽来て電線にずらりと並んで様子をうかがっていましたが、そのうちに群れがピラカンサに舞い降りて、ほんの1、2粒ついばんだところへ車が通り一斉に電線に。(キレンジャクも混じていました)それを2、3回繰り返すととうとうどこかへ飛び去ってしまいました。

次の日も、また10日後にも群れは来ましたがピラカンサには降りることなく行ってしまいました。2年前に60羽ほどの群れが来た時には3日も通って実を食べつくしたというのに、今回は車を恐れたのか、室内からの視線が気になったのか……。(K. D.)



〈キレンジャクとヒレンジャク〉

顔と翼の模様、尾の先の色が違います。

公園にも過去に飛来したことがあります。冬の終わり、住宅地の赤い実によくやって来ます。 行先: はるか



活動紹介

= ユンボで格闘 =

環境サポートチーム、またの名をクロツラヘラサギ環境整備隊の面々は、クロツラヘラサギ・リハビリセンター正面の汽水池にユンボを入れて汚泥を掻き揚げる作業に至った。池は急斜面の真下にあるためユンボの操作はヒヤヒヤもので見守る他の会員も悲鳴の連続だった。



この日、淡水と海水の流れを調整する直径 25cm ほどのパイプを沈めたが、池の中央にある細長い島をなくすためには大型ユンボが必要と考えられ、次年度には実現の運びとなりそうだ。

昨年採取したウラギクの種を蒔き、秋には整備された汽水池と咲き乱れるウラギクの花が楽しめるはずである。

= 春のボランティア説明会 =

ボランティアグループ「葦の会」の入会のための「説明会」は、年2回、3月と9月に開催されます。今春は3月29日に開かれる予定でしたがコロナウイルスの影響で中止となるなか、1名の入会希望者に仮登録をしていただきました。

= 活動を振り返って =

2019年4月「きらら浜自然観察公園春まつり」、7月「夏休み子ども自然観察会」、10月「きらら浜自然観察公園ふれあいまつり」、12月「クリスマスリースをつくろう」、2020年3月、新型コロナウイルス禍のなか関係者らで行われた「ヨシ焼き」、今年度の活動は全て終了した。これら例年の行事に加え今年度はさらに特筆することがいくつかあった。まず6月、クロツラヘラサギ保全事業の一環として山口湾の「海岸清掃・潮干狩り」に参加し、クロツラヘラサギの生息環境保全に努めた。7月には当会の情報発信の重要なツールの一つ「機関紙 よしきり」が通算発行100号を期し、10月には公園の管理団体NPO法人野鳥やまぐち主催の「クロツラヘラサギ国際シンポジウム in きらら浜」でパフォーマンスを披露した。パフォーマンスの披露に先立ち、ショートプログラム



チームはクロツラヘラサギの紙芝居を作り、クロツラヘラサギの歌のCDを作り、歌に合わせた振り付けを考え、着ぐるみを作りと大活躍だった。

また、会員一丸となって取り組んだクロツラヘラサギの生息状況観察・調査への同行や、クロツラヘラサギ・リハビリセンター周辺の環境整備作業、12月には2泊3日の台湾視察旅行を実施するなど、忙しくも充実した一年となった。新年度にはどんなことに巡り合えるかわくわくしている。

シンポジウムで踊る会員

新型コロナウイルス感染症の関係で、山口県や山口市関係公共機関の休館・休園が続き社会活動も沈滞化、3月恒例の“ヨシ焼き”も無観客での実施となりました。

そんな中、よしきり104号を無事発行出来、ホッと一息!! 早くコロナウイルス問題が収束することを祈るばかりです。

(M. S.)